



ほふる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～
【今月の一冊】 思考の整理学
外山 滋比古 著 筑摩書房
ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2018年8月1日 Vol. 190
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
ライフコンサルタント 渡邊 敏徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

200年構想



W杯・ロシア大会

今年の全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)は第100回の記念大会となります。全国の高校球児が甲子園出場を目指し、連日熱戦が繰り広げられました。今大会は8月5日から21日までの17日間、阪神甲子園球場で開催されます。

第100回記念大会となる今回は、例年2校が代表となる北海道と東京に加え、地方大会の参加校数が多い埼玉、千葉、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡からも2校が出場。史上最多の47都道府県56地区の代表校が出場し、優勝を目指し熱い闘いが繰り広げられます。日本の夏の風物詩となっている高校野球ですが、毎年、数々の感動的なシーンをみることができます。そんな野球界ですが、プロ野球ではテレビ中継がほとんど無くなってしまい、国民的スポーツではなくなってきてしまっています。サッカーの隆盛、競技人気の低下、保護者の敬遠、ブラック部活、指導教員の働き方改革、公園でのキャッチボール禁止など野球界にとっては大きな逆風が吹いてきています。

日本高校野球連盟(高野連)、朝日新聞社、毎日新聞社は「高校野球200年構想」を協議し、「次の100年」に向けた行動計画と具体的な24事業を発表しました。このことはとても画期的なことだと思います。しかし、今回提示された「200年構想」は方法論が中心で、大切な“理念”がぬけ落ちています。つまり、実行する人が何のために「そうするのか」という基本的な考えをしっかりと共有していなければ、方法論が「自己目的化」し一部指導者や選手が勝つためには手段を選ばないという「勝利至上主義」になってしまいます。日大アメフト部の問題もスポーツにおける“理念”が抜け落ちていることで起きた問題だと思います。これは企業にも同じことが言えます。

記念大会ということで、各開催日の第1試合の試合前に様々な年代で活躍した元選手18名が始球式を行うそうです。甲子園レジェンド始球式には、松井秀喜、水野雄仁、桑田真澄、佐々木

主浩、そして、坂東英二さんなどが登場するので毎日楽しみです。

サッカー界が掲げた「Jリーグ百年構想」には、「サッカー」のためでなく「スポーツ」の普及のためという考え方が根底にあります。多くの人が共感できるのはやはり“理念”なのだと思います。

サッカーのFIFAワールドカップロシア大会は、フランスが1998年自国開催で優勝して以来20年ぶり2度目の優勝で幕を閉じました。また、今大会からはじめて導入される映像を活用して判定の補助をする「ビデオ・アシスタント・レフェリー(VAR)」も勝敗に影響を与えました。

日本は久しぶりに決勝トーナメントへ進出し、赤い悪魔と称されるベルギーとベスト8進出をかけて素晴らしい試合をやってくれました。

強豪国が破れていくという波乱含みの大会でしたが、印象に残ったことがいくつかありました。グループリーグ初戦でコロンビアと対戦した日本が、アジア勢で初めて南米チームに勝利というビッグニュースに日本が沸いていたが、そんな日本のサッカーの試合の傍らで他にも世界中で反響を呼んでいました。それは、日本のサポーターがみんなで掃除を始め、一列ずつ、一席ずつ、自ら持ち込んだゴミ袋を使って丁寧にゴミ拾いをしていたことが驚きの姿として紹介されました。嬉しいことに、他のチームにおいてもゴミ拾いの輪が広がりました。コロンビア、ウルグアイ、サウジアラビア、セネガルなど。日本人サポーターによる清掃活動は今回が初めてではなく、日本が初出場した1998年のフランス大会に遡ります。こうした行動がもっと広がり、相手を思いやる人がますます増えていくことを期待したいものですね。



【座右の銘にしたい名言】



私のやった仕事で本当に成功したのは、全体のわずか1%にすぎない。99%は失敗の連続であった。

(本田宗一郎/日本の実業家・本田技研工業の創業者)

